

(8) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

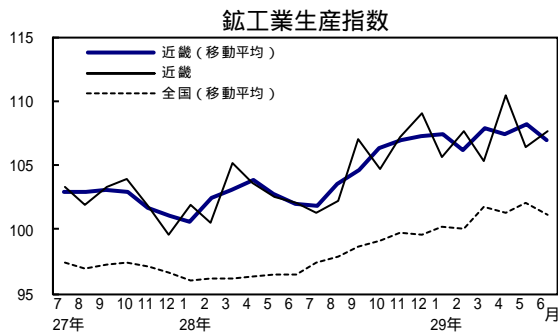
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年5月)	今回(平成29年8月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	持ち直しの動き	持ち直し	
個人消費	底堅く推移	持ち直しの動き	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4～6月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、有機薬品等が減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、太陽電池モジュールやリチウムイオン蓄電池等が増加した。「汎・生産・業務用機械」は、増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は鉄骨や橋りょう等が減少した。「窯業・土石、その他工業」は、増加した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
 2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 近畿は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

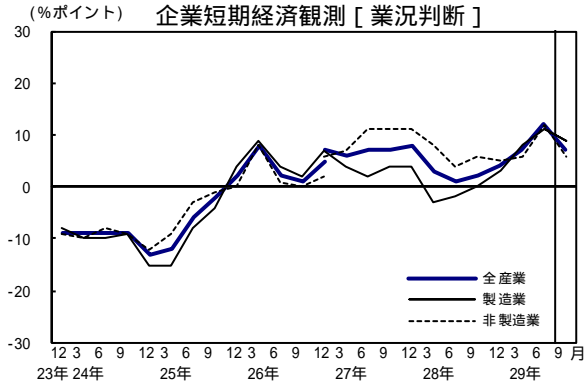
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	2.5	0.7	2.9	7.1	1.7
電子デバ、電気・情報通信	18.0	2.5	4.7	6.5	1.8	0.2
汎・生産・業務用機械	17.9	3.7	4.7	6.5	3.8	1.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	10.2	5.6	0.7	12.7	15.3
窯業・土石、その他工業	9.6	0.5	0.3	1.5	2.6	0.0
鉱工業	100.0	0.7	1.9	4.8	3.7	1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4～6月期、6月は速報値。

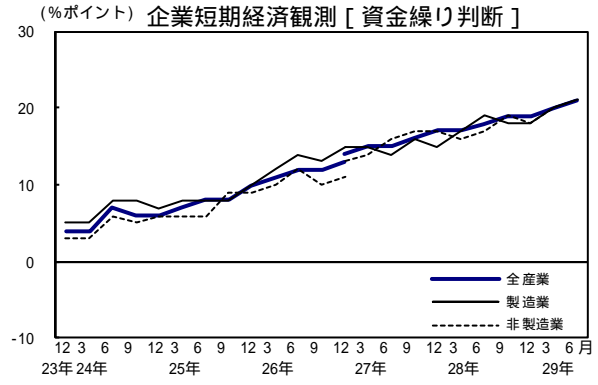
(8) 近畿

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

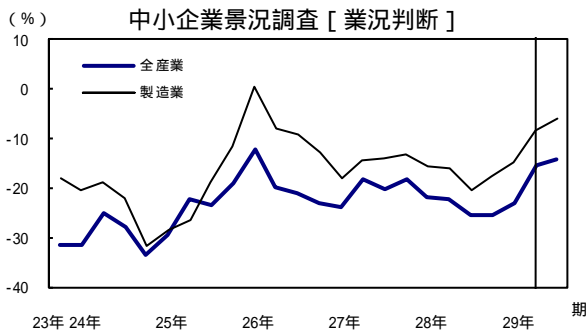
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測
26年12月は新・旧基準を併記。



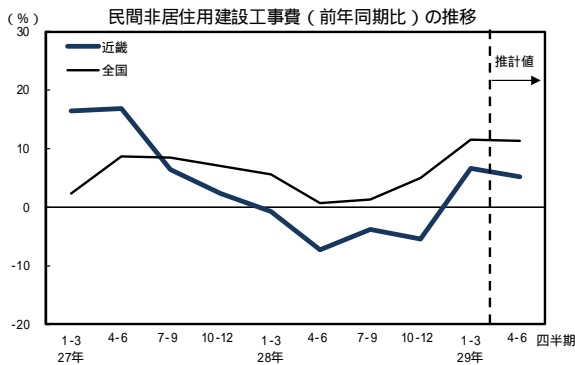
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「建築関係の出荷量が増えてきている(金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



(備考) 29年4 - 6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度見通
全産業	2.1 (1.8)	5.4 (2.7)
製造業	7.6 (4.7)	11.7 (2.2)
非製造業	1.5 (0.3)	0.9 (3.1)

(備考) ()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.8%増、5月は同0.1%減、6月は同0.1%増となった。

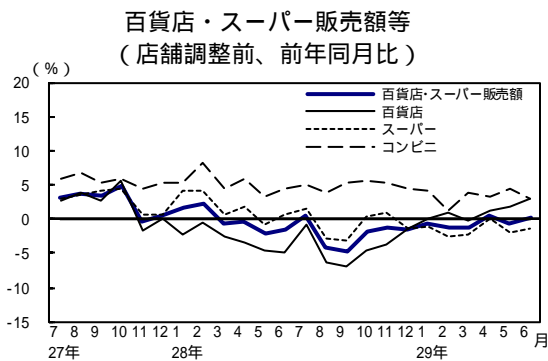
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、訪日外国人に対する販売が好調であり、その他の商品が好調であったことなどから、前年を上回った。5月は、インバウンド需要や母の日需要により、その他の商品や身の回り品が好調であったことなどから、前年を上回った。6月は、食料品が伸び悩んだものの、引き続き旺盛なインバウンド需要や、夏のバーゲンの前倒し効果などから、前年を上回った。

スーパーは、4～6月期は、衣料品や身の回り品が不調だったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「宿泊に関しては、インバウンドは引き続き好調である。中国からの団体客は、個人旅行に変化しており、欧米からの個人客も好調に推移している。ただし、国内の個人旅行は相変わらず元気がない。一方、レストラン売上や宴会売上は、このところ順調である (都市型ホテル)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.1	0.8	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	0.1	0.4	0.6	0.3
百貨店(*3)	1.9	1.2	1.7	3.0
スーパー(*3)	1.1	0.0	1.9	1.3
コンビニ(*3)	3.6	3.2	4.6	3.1
乗用車(*4)	11.9	8.6	12.2	14.3
(季節調整値)(*4)	8.1	9.3	3.5	1.2

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

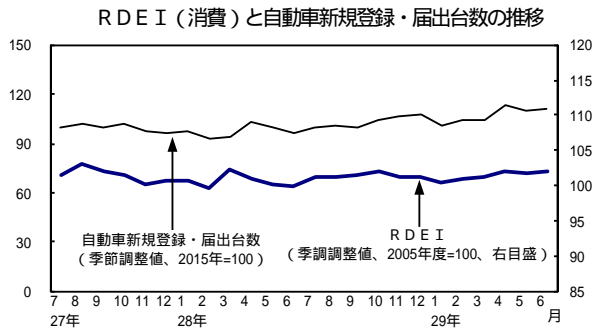
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

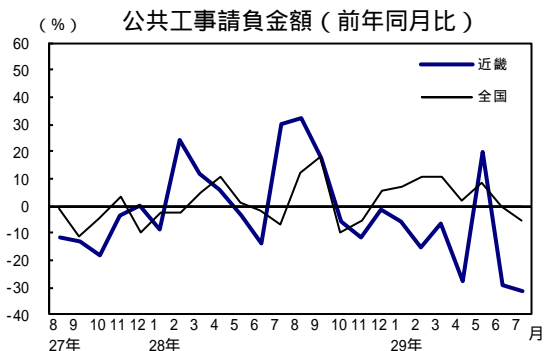
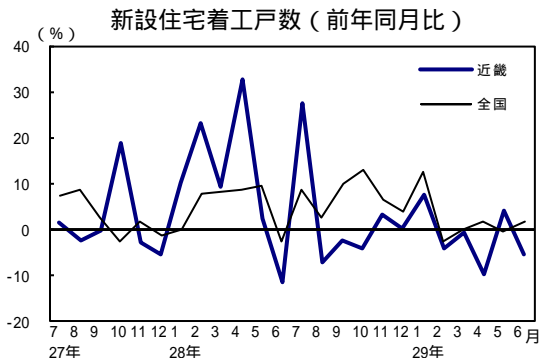
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



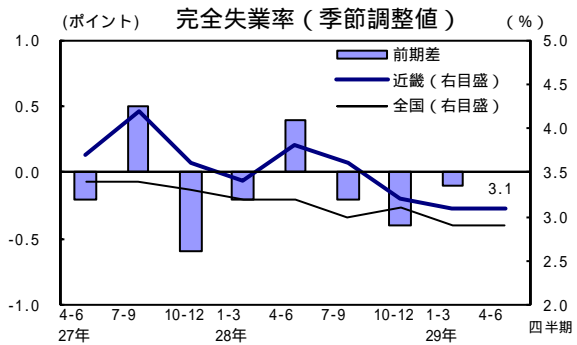
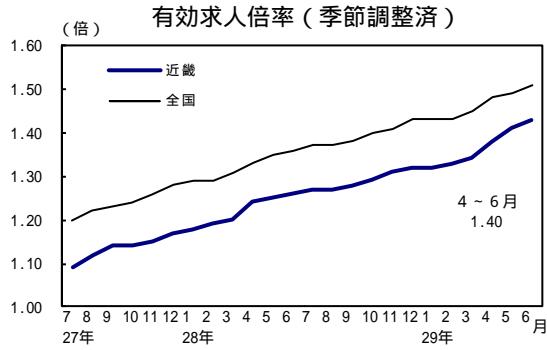
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[雇用関連（現状）]

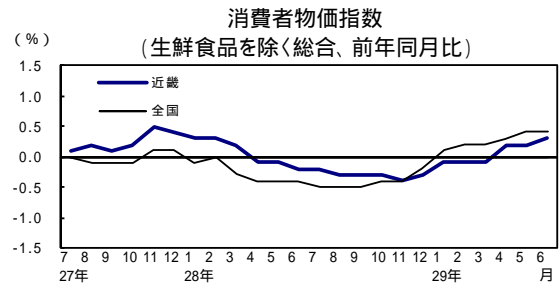
「人手不足の状況が月を追うごとに深刻化し、派遣事務で働く若年層は枯渇している（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	512	507	506	563	183
(前年比)	5.4	4.5	4.0	5.8	18.8
負債総額	550	5,794	481	561	260
(前年比)	9.4	1,110.4	49.2	5.2	64.9



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・気温の上昇に伴い、エアコンを中心とした季節商材の販売が伸びている。また、高付加価値商品の販売に注力することで利益も確保されている（家電量販店）。

<先行き>

・販売量と供給量のバランスが以前よりも改善され、売上、利益共に、より効果的に増加する（木材木製品製造業）。

